『沖縄詩歌集 ～琉球・奄美の風～』公募趣意書

出版内容＝沖縄（琉球諸島）の多様な文化の魅力や過酷な歴史を詩・短歌・俳句・琉歌で詠いあげて欲しい（奄美群島の詩歌も文化的歴史的見地から含まれる）。A５判　約三五〇～四〇〇頁　本体価格一八〇〇円＋税

発行日＝二〇一八年六月二十三日発行予定

編集者＝鈴木比佐雄、佐相憲一

発行所＝株式会社コールサック社

公募＝二五〇人の詩・短歌・俳句・琉歌を公募します。作品と承諾書をお送り下さい。既発表・未発表を問いません。趣意書はコールサック社ＨＰからもダウンロードが可能です。**http://www.coal-sack.com/**

参加費＝一頁は詩四十行（一行二十五字）、短歌十首、俳句二十句、琉歌十首で一万円、二冊配布。二頁は詩八十八行、短歌・俳句・琉歌は一頁の倍の作品数で二万円、四冊配布。校正紙が届きましたら、コールサック社の振替用紙にてお振込みをお願い致します。

しめきり＝二〇一八年三月一五日必着（本人校正一回あり）

原稿送付先＝〒一七三－〇〇〇四
東京都板橋区板橋二－六三－四－二〇九
データ原稿の方＝ご郵送と同時に〈m.suzuki@coal-sack.com〉（鈴木光影）までメール送信お願いします。

【よびかけ文】

琉球の風が吹くと、亜熱帯の地にサンシン（三線）のゆったりした調べが聴こえてきます。ウタキ（御嶽）からは古来人びとが祈ってきた大切なもの。アジア海洋の中継貿易がもたらしたはるかな友好精神が独自の島文化と溶け合って息づいています。伝統的な陶器やちむんや琉球ガラスもあれば、多様な若者の最新音楽も盛んです。サンゴ礁の海からやんばるの森まで、沖縄は自然界の美も奥が深い。ゴーヤーチャンプルー、グルクン、ジューシー、ソーキそば、ジーマーミ豆腐、もずく、ラフテー、海ぶどう、ミミガー、島らっきょう、島トウガラシ、サーターアンダーギー、さんぴん茶、泡盛、など独特の食文化も光ります。わたし自身こうした琉球文化を愛する者です。

度々、沖縄旅行ブームが起こり、親しみを覚える人が少なくありませんが、政治的に戦争や軍事基地の悲劇を強いる体制に組み込まれて、沖縄の願いが踏みにじられてきたことは御承知の通りです。危機的な世界情勢のもとで沖縄に世界出撃の米軍新基地をごり押しする日米政府の考えは、沖縄県民のみならず、日本国民多数の思いとも一致しないでしょう。

わたしたちは平和と文化を愛する物書きとして、こうした動きに抵抗する意味もこめて、沖縄・琉球に関する詩・短歌・俳句・琉歌をまとめて広範な人びとの心に届けます。テーマはさまざま、書き方もさまざま、自由な精神で、とにかく一冊まるごと沖縄です。名づけて『沖縄詩歌集～琉球・奄美の風～』。関心ある皆さんの積極的なご参加をお待ちします。

（佐相憲一）

沖縄島北部から日本最南端の与那国島まで約六百kmあり、東京から岡山県ぐらいまでの距離だろう。それほど沖縄諸島から先島諸島までを含む琉球諸島は、広大な海に点在している独自の文化・歴史を持つ。私たちが沖縄と言う時に「琉球諸島」の文化・歴史とそこで暮らし続ける人びとの思いを受け止めることは至難の業だ。沖縄（琉球列島）は、アジアの原郷でもあり日本列島の外にある独自の文化・歴史を持った異国だと率直に認めることが必要だ。二〇一六年二月に辺野古の浜に行き、私は次のような詩を書いた。

「淡い金色の浜辺から白い波の向こうは水藍から浅葱色となり／さらに縹（はなだ）色、藍、藍錆のプルシャンブルーとなり／水平線上の空色へと続いていく／空には水藍色のジュゴンの群れのような雲が泳いでいて／雲間から朝の陽射しが漏れて海面で踊っている／もし私がダイバーならばこの海に潜って／ジュゴンの餌場の海草藻場を散策するだろう／そこは私の暮らす関東平野の筑波山の岩場の／「母の胎内めぐり」のような聖なる場所に違いない／沖縄人が命を新たにし生まれ変わる聖地は後世に引き渡すべきだ」（詩「ジュゴンの友に加えて欲しい―薄鏡貝の辺野古にて」より）

このようなジュゴンの餌場がある沖縄の聖地の海辺を埋め立てて、海上基地を建設しようとする正当な権利が、沖縄県民の総意を無視して、民主主義や人権を標榜する日本政府・米国それを黙認する日本国民に果たして存在するのだろうか。宝物のような琉球諸島の多様な文化の魅力や過酷な歴史を語り継ぎ、琉球人の「まぶい」（霊魂）に触れて詩・短歌・俳句・琉歌などで詠いあげて頂ければと願っている。

（鈴木比佐雄）

キリトリ線（参加詩篇と共にご郵送ください）データ原稿をお持ちの方は〈m.suzuki@coal-sack.com〉までメール送信お願いします。

『沖縄詩歌集 ～琉球・奄美の風～』参加承諾書

応募する作品の題名	
氏名（筆名）	
読み仮名	
生年（西暦）	一九　　年
生まれた都道府県名	

現住所（郵便番号・都道府県名からお願いします）※	〒 TEL（　　）
代表著書（計二冊までとさせていただきます）	
所属誌・団体名（計二つまでとさせていただきます）	

※現住所は都道府県・市区名まで著者紹介欄に掲載します。
校正紙をお送りしますので、すべてご記入ください。

――以上の略歴と同封の詩篇にて

『沖縄詩歌集 ～琉球・奄美の風～』に参加することを承諾します。

印